

神戸医療生協支援ニュース

2011年5月 19日 第24号

みやぎ県南地域 レポート

県南医療生協の組合員さんも点在する山元町花釜地区では、住民のみなさんが生活再建を目指して独自でがんばっておられます。

先日ボランティアで泥出しを行ったお宅へ訪問、ご主人は「自分たちだけではどうして良いかわからない。ボランティアの方たちが来てくれるから、生きよう、と思えるようになった。」と語っておられました。

医療生協の組合員さんはまだ少ない地域ですが、懸命にがんばっている住民の方に対し、医療生協として出来る限り支援していくことが求められている、と感じました。



どもさん・組合員…

371枚のメッセージが寄せられました。神戸からのメッセージはとても「あつい」です。

その② 街頭募金行動

クリニックのお膝元、板宿商店街での3回目の義援金行動を行い、今回も30分で約20,000円集まりました。4月の行動は、2回で52,000円の協力がありました。

今回は、リレートーク方式で、7名の職員がハンドマイクを持ち、それぞれの思いを訴えました。トーンが低くなりがちな行動を盛り上げたり、流暢にしゃべれずに落ち込んだり、さまざまなドラマがありました。毎回10名以上の職員や組合員さんが参加します。

これからもこの行動は続きます。自分たちにできることを精いっぱいやろうと思います。

その③ 震災カレー

平和カレーならぬ震災カレー、月2回シェフが腕をふるいます。この日は職員全員強制的にお昼ごはんはカレーになります。売り上げはすべて義援金になります。ちなみにシェフはわが事務長です。

こころひとつに!

いたやどクリニック震災支援行動

その①「届け!この思い

福島医療生協へ」

兵庫民医連理事会で決まった激励メッセージ。インパクトがあつて癒されて、と思いついたのが身長1mの巨大ぬいぐるみ。職員・患者利用者・小児科の子

真庭にある坂元中学校跡地の仮設住宅を訪問し、話をおうかがいしました。

入居者は元の地域の人たちばかりなので、コミュニティーづくりはそんなに心配ないとのことでした。

この地域の方たちは農業に従事していた人たちが多く、農地をどう確保して生活を再建していくのか、そのために国がどのような政策を出すのか? といったことに大きな不安があると語られていました。

